

運送業界の健康支援を生きがいに

209 第16回OCHISセミナー【報告】

11月2日、会場開催とLive発信のハイブリッドで第16回OCHISセミナーを開催しました。会場開催は実に3年ぶり、お互いにマスク顔ではありませんが、久々に皆様にお会いできる嬉しさがこみ上げたセミナーとなりました。

「さらなる背景を探る」の基本である健診結果やSAS検査、生活習慣、労働時間、健康経営などに関しては、運輸ヘルスケアアナビシステムでほぼ集約・対応ができます。したがって、まずはナビシステムの活用をお勧めします。

例えば、肥満、高血圧、脂質異常、高血糖の所見のある方が、何か月も長時間労働を繰り返していたり、睡眠時間が5時間未満であったり、喫煙歴が20年以上であったりすると、たちまち脳・心臓疾患に突入するというシナリオが見えます。多くの事業者様

はおそらく、「別々のフォロワー」で管理されていると思いますが、これらの情報を集約し、リスクチェックを行うことが、過労死予防にもつながるといのが、OCHISセミナーからの発信です。

●関係者との連携が不可欠
今後は、ナビシステム内のこれらの情報を核として、運行の側面であるドライブレコーダーや、タイムリーな運転中の身体情報が分かれば、格段に予兆精度もアップします。そういう意味でも、各関係者とのさらなる連携が不可欠です。

先月号の本連載でも、テーマである「健康起因事故のさらなる背景を探る」が少し踏み込んだテーマである旨について触れましたが、参加者のアンケートを見ると、「テーマに興味があったから」「テーマがよかった」と回答いただいている方が多くおられ安堵しました。

●運輸ヘルスケアアナビシステムの活用を



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

セミナーアンケートにお答えいただいた方からも、「今後は安全管理、運行管理などのシステムの連携を進め、企業の負担が軽減されるメリットが見えるようになれば、運輸ヘルスケアアナビシステムはもっと普及する」とのご意見を頂きました。まさにその通りで、これらの合わせ技がさらに予兆効果を発揮できるよう、今後はしっかりと連携を進めてまいります。

(次回は12月8日号に掲載)